えがお vol.37

発　行：さいたま市立病院
発行者：院長　窪地　淳
住　所：さいたま市緑区大字三室 2460
電　話：048-873-4111
http://saitama-city-hsp.jp

院長あいさつ

院長　窪地　淳

平成 26 年から取り組んできた新病院の建設も、基本設計から約 6 年を経て、令和元年 9 月末に無事完成に至りました。この間、東日本大震災後の復興、オリンピック需要、更には消費税の増税と社会的な影響を受け、建築費が際限なく高騰し、計画通りに病院建設を進めることができるかと大変心を痛めた時期でもありました。

現病院の建物は、古いものでは昭和 49 年に建てられたものであり、さいたま市は 4 市（浦和市･大宮市･与野市・岩槻市）が合併し、人口約 130 万人の政令都市となった訳ですが、さいたま市になってからも、浦和市立病院時代からの建物を使用してきたこともあり、病院の老朽化・狭隘化が激しく、当院の療養環境、労働環境は悪化の道を辿っていました。

平成 23 年に外部委員の参加のもとに開かれた「さいたま市立病院あり方検討委員会」で、このことが指摘され、これを機に新病院建設へと舵が切られ、平成 26 年にさいたま市立病院施設整備検討委員会で「さいたま市立病院施設整備基本計画」が策定され、新病院建設が本格的に始まりました。

新病院の建設に際して、さいたま市立病院は安心して暮らせるさいたま市のシンボルとして、高度な医療を提供し、市民の皆様にとって安心・安全な地域社会を構築することが使命であると考えました。そのことから、自治体病院に求められている民間では担えない高度急性期・急性期の医療や不採算部門の医療などを提供し、市民のニーズに応え、市民の皆様が他県に流出することなく、さいたま医療圏で充実した医療が受けられるようにするためにも、建物といったハード面のみでなく、ソフト面においても脆弱となっていた既存の医療機能を強化し医療サービスの向上を図り、安心・安全な地域社会を構築する一役を担うべく病院の整備を行うこととしました。

今回新病院建設にあたり主に整備した内容は以下の通りで、一つには①当院では現在約 7,500 件の救急搬送患者を受け入れていますが、今後更に急速に進む高齢化社会を視野に入れ、救急病床 20 床を新設し 3 次救急にも対応できる救急医療体制の充実を図りました。更には②手術室を 7 室から 12 室に増室し、その中にはハイブリッド手術室、無菌室なども整備しました。

手術室写真：

その上、手術室内に血管内治療室 2 室を加え、血管内治療を可能とし、ロボット支援手術を含めた鏡視下手術など時代の流れを考慮した急性期医療の強化を行いました。また③放射線診断はもとより、特にリニアックやサイバーナイフを更新及び新設し当院にとって大きな課題であった放射線治療の強化を図り、更には化学療法室を拡充し、無菌室の整備や 20 床規模の緩和ケア病棟の新設など地域がん診療連携拠点病院としての診療の充実を図りました。また、④産科、新生児、小児科領域の外来・病棟・治療部門をワンフロア（新病院 5 階）に集約し、当院は地域周産期母子医療センターに指定されていますが、集約した内容を包括する意味からも院内名称として「成育母子医療センター」と命名し、効率的な一連の管理ができる体制としました。また、⑤さいたま市を構成する 4 医師会を中心とした地域から要望の強

かった精神科身体合併症病棟を 30 床規模で新設し、また⑥当院は第二種感染症指定病院でもあることから、院内感染防止を考慮し、陰圧管理された感染外来を設け、感染症病棟（10 床）とは別に各病棟に陰圧個室を設け、更には感染症以外の患者さんや家族等の方々が使用する中央のエレベーターから離れた、感染症の患者さん専用のエレベーターを設置しました。一方では、⑦労働環境改善の一環として病棟における看護師の動線が短くなるような構造としたことなど、多方面にわたる数々の項目について整備を行っております。

現在、医療の現場では、全国的に少子高齢化に伴う人口減少に端を発し、地域医療構想、医師の働き方改革、医師の偏在など解決しなければならない多くの課題が取り上げられ、医療提供体制への改革の嵐が激しく吹き荒れています。この様な中で、地域における各病院の役割を明確にすることが求められていますが、今回新病院の完成によって、当院が果たすべき基盤ができたものと考えています。

病院経営が益々厳しくなっていく医療環境ではありますが、今後も将来に向けて整備を継続し、地域に根差し、市民の皆様にとって、この病院がこの地域の誇りとなり信頼される病院にならなければならないと決意を新たにしているところです。

放射線治療装置 サイバーナイフが導入されました

このたび、さいたま市立病院の新病院開院に併せて、最新の放射線治療装置（リニアック）が 2 台導入されました。そのうちの 1 台がサイバーナイフ（Cyberknife）です。「ナイフ」とありますが実際に「切る」のではなく、この装置によって行われる「定位放射線（手術）療法」が外科手術に匹敵するほどの効果を得られることから名付けられました。

アキュレイ（Accuray）社製　サイバーナイフ（Cyberknife）M6

サイバーナイフの特徴

この装置の特徴は、何といってもロボットアームの先端に放射線治療装置が取り付けられていることです。汎用型のリニアックは空間のある 1 点を中心にマシンが回転するだけですが、サイバーナイフはロボットアームの動きによって柔軟で広範囲な照射方向を設定することが可能です。このロボットアームは自動車工場での組立などでも利用されており、とても高い精度（0.1mm 単位）で動作や停止することが可能です。

サイバーナイフによる治療

定位放射線（手術）療法は通常の放射線治療とは異なり、放射線を照射する範囲を限りなく病変部（標的）だけに絞ります。このため標的周囲の正常組織に対する影響がとても低くなり、放射線による副作用の発生を抑えることが可能なため通常の放射線治療に比べて 1 回当たりの線量を大きくすることが可能です。これにより、数週間かかる放射線治療を数日～ 1 週間程度に短縮して通院にかかる負担も減らすことが可能になりました。

実際の治療では、患者さんは治療台の上に 30 ～ 45 分ほど寝ていて頂くだけで治療は完了します。放射線が体に当たっても痛みなどは全く感じませんし、治療の際の麻酔なども不要であり安心して治療を受けることができます。

また呼吸追尾照射機能も装備しており、呼吸によって体内で動く標的もロボットが自動で追いかけながら照射することができ、治療時間の短縮も可能です。

治療に必要な費用

サイバーナイフによる放射線治療は、すべて健康保険が適用されます。必要な金額は患者さんの負担割合によって異なりますが、３割負担であれば一連の放射線治療にかかる費用は約 19 万円です。ただし他の診療や入院、各種検査に関する費用は別途必要です。

サイバーナイフによる治療を希望されるかた

当院でのサイバーナイフによる放射線治療を希望される患者さんは、かかりつけ医にご相談ください。病診連携室経由で市立病院放射線治療科の診察予約をお取りします。その後に放射線治療医の診察を受けて頂き、放射線治療の適応があるか医師が判断いたします。

新任医師の紹介

産婦人科　有賀　治子

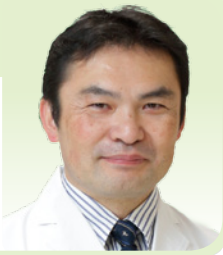
2019 年 6 月より赴任いたしました。丁寧な診療を心掛けております。よろしくお願いいたします。

座右の銘
千里の道も一歩から

歯科口腔外科　清水　一

趣味
SKI、バスケットボール

2020 年 1 月に歯科口腔外科が新たに開設いたしました。
口は災い、万病の元！
市民の健口増進と健康長寿に貢献できるよう精一杯努めて参ります。



救急科　萩原　純

質の高い救急医療を行うよう努力してまいりますので、よろしくお願いいたします。

趣味
落語鑑賞

泌尿器科　楊井　祥典

座右の銘
凡事徹底

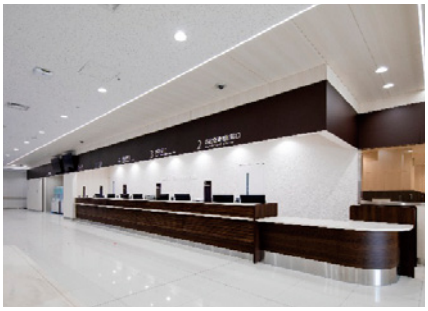
地域の皆様に貢献できるよう精一杯努めて参ります。よろしくお願いします。

新病院の紹介

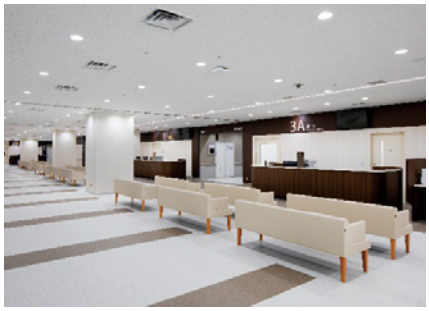
2019 年 12 月
新病院開院いたしました。

エントランス

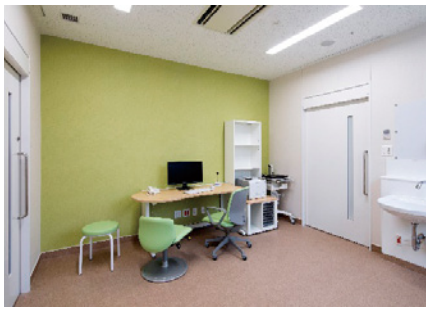
患者支援センター



外来受付（1 階）



外来待合室



診察室

外来受付（2・3 階）

スタッフステーション

感染外来

病室（4 床室）

アッセンブリーホール
（3 階　講堂）

※広報誌「えがお」は当院ホームページ（http://saitama-city-hsp.jp）に掲載しておりますので、どうぞご覧ください。
「えがお」は年4回発行しています。

※この印刷物は1200部制作し、1部当たりの印刷経費は60.5円です。